



「五ヶ瀬中学校校歌より」

学び舎

五ヶ瀬中学校校長室だより
令和元年5月31日
No.2
文責：校長 戸敷二郎

令和元年度の生徒総会が行われました

5月29日（水）の午後に本年度の生徒総会が開催されました。

今年のスローガンは**みんな輝け五中魂～令和の節目に刻む感動の物語～**と決定しました。設定理由の中には、令和を迎えた節目の年に全校生徒で何事にも全力で取り組み、一人一人が輝きながら新しい伝統を積み重ね、次の世代にバトンタッチしていくこうという強い決意が込められています。



生徒会執行部と専門委員会の準備した7つの議案について討議がなされました。議長には3年生の飯干柊太くんと吉村愛加さんが選ばれ、限られた時間を使って全校生徒の意見をまとめました。

中心議題は

- ① 地域でのあいさつを向上させよう
- ② 登下校を見直そう
- ③ 五ヶ瀬中学校「Gルール」を見直そう

の3つでした。

いずれも自分たちの日常を振り返り、地域住民の一人としての役割や各自の将来を見据えた視点からの意見などが活発に出されました。

た。③の五ヶ瀬中学校「Gルール」は昨年度の生徒総会で議決されたメディア利用の校内申し合わせですが、(せ)の制限時間について21:00までとする修正案が可決されました。左に示したように、郡内の3つの中学校にも自主的に作られたルールがありますが、今回の修正で利用時間が統一された形となりました。「学力の向上や定着に影響がある」「睡眠時間7時間半以上を確保するため」など、しっかりとした根拠に基づいた意見が出され、全会一致での修正となりました。

生徒総会の限られた時間内では終わらない案件も複数残りましたので、今後の協議は中央委員会での審議となることが決まりました。

生徒自身によるSNS利用規程の設定

高千穂中

- 1 友だちとのメッセージのやりとりは21時までにします。
- 2 「zzz」と送られてきたら、それ以上相手に返信を求めたり、相手からの返信を待ったりしません。
- 3 送る前に「本当に送ってよい内容かどうか」を考えてから送ります。

上野小中

- (上) よく考えて送ります。
顔を見て直接言えないことはSNSを使つて言いません
- (中) いつまでも使いません。
夜9時以降は電源を切り、充電は居間でします
- (下) 子どもだけで決めません。
気になることは必ず親に相談します

田原中

- 1 メッセージのやりとりは21時まで
- 2 写真を他の人に送ったり、アップしたりする時には、相手に必ず許可を得ること
- 3 送る前に、本当に送ってよい内容かどうかを考えよう。

五ヶ瀬中

- ご ご利用時間は平日1時間まで！
- か 学習中は電源OFF！
- せ 制限時間は22:00まで！
ちゅう 注意でトラブル回避！

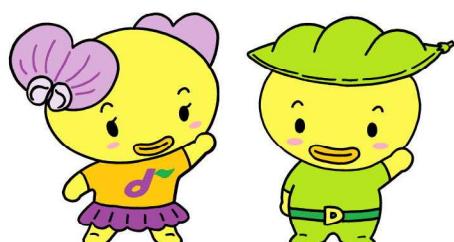
ました。特に、登下校時の道路の歩き方については学校内だけで決してできない要素もあり、道路交通法などもしっかりと読み込み、一般的な約束事なども身に付ける機会にして欲しいと思います。

フラちゃん・ボンくんが1歳になりました

約1年前の5月16日に五ヶ瀬町家庭教育五ヶ条が示され、そのキャッチコピー「早寝・早起き・朝大豆」のイメージキャラクターとしてフラちゃん・ボンくんが誕生しました。厳密には5月16日の時点ではまだ名前ではなく、その後の公募によって愛称が決定しましたが、2人の誕生日はこの条例の公布日と位置付けています。

この1年間、本校も含め町内の各学校での家庭教育学級や懇談会などでも積極的に取り上げていただき、「早寝・早起き・朝大豆」の根拠が理解され、その理解に基づいた実践も町内全体に広がってきたと感じています。

各家庭に配付されている五ヶ瀬町家庭教育五ヶ条を改めてご覧いただき、子供たちの将来が明るく豊かなものになるように2年目の取組を更に活性化して参りましょう！



自立を促すということ

～私たち大人の役割を再確認しましょう～

先日、5月10日の午前中に日向灘を震源とする地震（五ヶ瀬町は震度4）が発生しました。学校はちょうど1時間目の授業中でしたが、日頃の訓練の成果もあり生徒も職員も落ち着いた対応ができました。余震がないことを確認して授業を再開したのですが、ふと、3月に卒業した生徒達のことを思い出しました。28人の卒業生のうち延岡に6人、高鍋に1人、宮崎に6人が進学をしています。本校では地震の避難訓練の中に「津波避難」は含んでいません。もし、南海トラフの大地震が発生して宮崎県の沿岸地域に津波が押し寄せるようなことがあったら・・・。と思いました。当然、進学先の高校では十分に訓練や啓発がなされているとは思いますが、慣れない海端での生活の様子を憂いました。



取り返しのつく失敗をたくさん経験させて育てなさい

この言葉は教職に就いた頃、恩師の先生からいただいた言葉です。「人は体験したことからしか学ばない」という学者もいます。失敗体験、成功体験どちらも大事な体験ですが、特に子供の時期は「うまくいかない」「うまくできない」体験からそれを振り返らせ、やり直しや修正を手助けしながら育てていきなさいということを示されたのだと思います。

朝、自分で起きることができない。先を見通して計画的にものごとを進めることができない。身の回りを自分で片付けることができない。などなど、子供の時期はできないことがたくさんあります。子供の発達段階に応じて私たち大人の支援は変化するべきだと思います。大人は子供の失敗が先読みできるだけに「転ばぬ先の杖」を出します。転ぶという体験の機会を失った子供は次の「転び」まで修正や成長の機会を奪われてしまうとも考えられます。

朝寝坊をして遅刻しそうだから助けて！宿題ができるなくて叱られるから仮病で休みたい！友だちと口喧嘩（今はLINE喧嘩？）したので学校に行きたくない！・・・子供たちは困難な問題に出会ったとき、誰かの助けを求めたり逃げだそうとしたりするものです。これは発達段階から見ても当然の反応であり、大人より経験・体験の少ない子供の時期の特徴的な反応です。

では、私たち大人はどこまで「転ばせる」べきか・・・？

主体的・対話的で深い学び

この言葉は、新しい学習指導要領に示されたこれから目指すべき学びの姿です。あえて逆さまにしてみると「**他力的・孤立的で浅い学び**」とでもなりましょうか？一人の人間が自立していくためには、やはり自らの意思でチャレンジしながら成功や失敗を繰り返し、その振り返りの過程で周囲の人々と協働しながら学び続けて行くことが欠かせないのだと思います。「人間は一人では生きていけない」「人と人の間で生きるから人間というのだ」という文章を読んだことがあります。漢文では人間（じんかん）と読ませたりもします。

親であれば誰しも、わが子の将来的な自立を望みます。いつまでもついて回って「転ばぬ先の杖」を差し出すわけにもいかないことは十分に分かっています。冒頭に書いた卒業生達も親元を離れ、自分で寝起きをし、慣れない自転車に乗って通学をし、初めて受ける「津波避難の訓練」を受け、食事や洗濯なども自分で行っている生徒も多いと思います。しかし、そこにはたくさんの仲間や先輩などがいて、互いに支え合いながら共に生きていくこうとする姿もあるはずです。本校のように、卒業とともに家を離れる生徒が多い中山間地域の学校では「一つ屋根の下」で過ごす15年間で自立の仕方を身に付けさせなければならない家庭が少なくありません。

「取り返しのつかない失敗」は決してさせてはなりませんが、学びのきっかけとなるような失敗は大いに体験させて、たくましく生きていく人間を育てて参りましょう。毎週、日曜日の夜7時半からのNHK番組『ダーウィンが来た！』を楽しみに見ています。時々、エンディングあたりで親が「巣立ち」をうながすシーンを見ることがあります。餌をねだる子供に背を向けて去って行く親と必死で追いかける子供。振り返ってかみついたり、つついたりする親。つらいシーンですが、我が子の自立のためには避けて通れない場面なのだな～と思いながら見ています。

